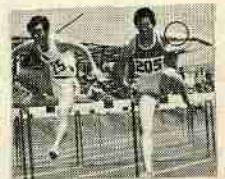
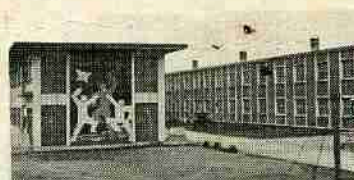
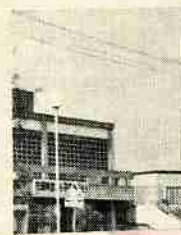
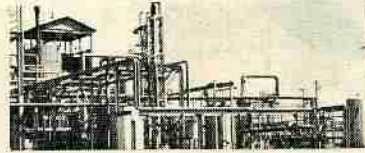


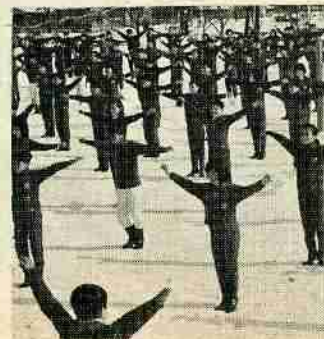
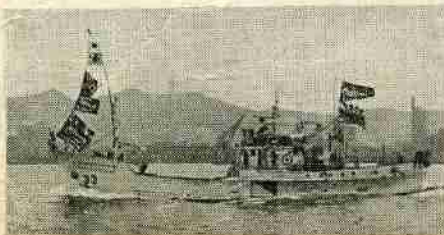
広報

のほらべつ



№47

1 月号
1972 No.147



生活都市登別を築く

登別市長
高田忠雄

市民のみなさま、明けましておめでとございます。



迎え、みなさまの健康を心からお祝い申し上げますとともに、平素からの市政に対するご理解とご支援に対し深く感謝申し上げます。人間性復活の時代といわれている七十年代も二年目を迎えました。わたくしは、これまでの躍進の上になつて、本年も生きがいのある都市建設のため「人間優先」の市政を積極的に進めていきたいと存じます。この意味において特に交通安全、公害、住宅、社会福祉など任まいます。心からうれしく存じます。

一方、道路、上下水道の整備、教育文化施設の拡充、都市再開発の推進など福祉公共施設の完備にもいっそうの努力を傾注し、みなさまの生活環境をより豊かなものにしたと考へている次第であります。すなわち市民憲章の理念を生かし、緑と空気が太陽のいっぱいある豊かで活気あふれる生活都市登別を築くため、美しい自然と平和な営みが調和する登別市建設を目標として懸命に取り組んでまいる所存でございます。

ご承知のとおり最近の社会経済の情勢は非常に厳しいものとなつており、世界に類をみない輝かしい経済成長と同時に、この急速な成長が経済社会に構造上の深刻な問題をもたらし、国民生活の安定向上にかけをなげかけていることは物価の上昇など市民のみなさまが身をもつて感じておられることと存じます。又科学技術の発達に伴う工業の発展により公害の問題が発生しており、特に我が国のように狭い国土に高密度の産業社会を形成している場合にはこの問題の深刻さはひととき大きなものがあつた。これら激動する社会情勢下にあつて地方自治体も大英断を下さなければ市民のしあわせは

得られないという緊迫感を覚えるものであります。当登別市におきましても、人口、産業の膨張は最近非常に著しく一昨年の市制施行等も併せ急速に都市化が進んでまいりました。その反面いろいろの問題も発生しておりこれらの問題解決と登別市発展のため、市政の主人公は市民であるの意識に徹し、最善の努力をいたしてまいるべく決意をあらたにして、いよいよ次期であります。どうか本年も市政に対し倍旧のご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、みなさまがたの多幸を心からお祈り申し上げます。まして新年のごあいさつといたします。

市民のみなさま、あけましておめでとございます。

昭和四十七年の年頭にあたり、登別市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。ここに希望あふれる一九七二年の新春を、お祝いできますことを



まいりました。おかげをもちまして、登別市も市民憲章の理念のもとに、着々とその隆盛の一途をたどつておりますことは、市民のみなさまの深い郷土愛とご協力によるものと、心

札幌オリンピックの年でありまして、いまやなほなほなく世界に羽ばたこうとしております。しかしながら、現下の社会情勢は昨年のドルショックによります世界的な経済変動、あるいは沖繩

減産によりまして、不況の波は市民生活にまで、おしよせてきているのであります。議決機関であります、われわれ登別市議会、いたしましても、このよきな諸情勢に屈することなく

どうか、市民のみなさまにおきまして、市政に対してより一層のご理解とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

市民の信託にこたえる 登別市議会議長 室 久吉

心からうれしく存じます。昨年、市制施行後初の統一地方選挙がございまして、当市議会といたしましては、一層、心あらたに市理事者ともども、四万七千市民の福祉増進のため、努力して

から感謝の意を表するものであります。ことは、北海道有史らしいの輝かしい年であります。世界中の人々の目が、この北海道に集り、スポーツの祭典である

返還協定をめぐる一連の問題などがありました。また、インド、パキスタンにおける紛争と、国の内外はめまぐるしい情勢下にあります。鉄鋼、織維などの大手企業の事業縮小や

一層、心を新たに、ことしも終始公正に全市民の信託にこたえ市民生活の向上に対処すべく、市政の諸問題を慎重に審議していく所存であります。また、これからの地方自治体が多事多難となるなかで、一九七〇年代を、誇りうる輝かしい時代になるよう努力をする決意であります。



風雪をのりこえ104年

ますます未来へ躍進

わたしたちのまちも、明治二年
いらい、一〇四年目を迎えました。
開拓精神に徹した祖先や先輩の
苦闘と愛郷の念にもえた、たゆま
ない努力によって、いまや登別市

も古い歴史と美しい自然にめぐま
れ、名実ともに北海道の樺都市
として発展し、ますます未来へむ
かつて躍進しつづけています。
そこで、わたしたちの諸先輩が

明治のころ

十七世紀ころから 登別温泉は知られていた

本町(いまの幌別町)には、数
千年の大昔から人類が生活してい
たことが遺跡からの数多くの出土
品によって知られています。

このころの先住民は、豊かな自
然のなかで採集経済を長いあいだ
続けていたことがわかります。し
かし、いまから三七九年前の文禄
二年、松前藩の領地となつてから
和人の居住が禁じられ、開拓につ
いては少しも考慮されませんでした。

それが江戸時代の末になると、
えぞ地がにわかにはクローズアップ
されるようになり、幕府が直接そ
の防備と開拓にあたるようになり
ました。本町にも安政四年(明治
になる十年くらい前)ころから、
永住しようとするものが来るよう
になり、ようやく開発のきざしが
見えはじめました。またこのころ
登別温泉に滝本金蔵が入り、農耕
をやったり、宿泊、温泉の開発、
漁業などと多方面に活躍しました。

歩んできた道を、もう一度ふりか
えり、美しい自然と平和な営みが
調和する明日からのまちづくりの
ために、みなさんとともに歴史を
たどつてみましょう。

しかし、登別に温泉があるとい
うことは、日持や円空が温泉を訪
れたという言い伝えからも、その
古さを物語るものであり、かなり
早くから知られていたことがわか
ります。ですから十七世紀には登
別温泉の存在が一般に知られてい
たということができます。

さて、ちょうど一〇四年前の明
治二年に、幌別・登別の三
村をもつて幌別郡とすることが定
められ、仙台藩の白石城主片倉邦
憲が幌別郡を支配することになり
ました。そして、翌三年から片倉
の旧臣、数十戸が移住し開墾に力
をつくしたことは、登別市の夜明
けといつていいでしょう。

まもなく明治維新の変革によつ
て、幌別郡は開拓使の所轄となり、
明治十三年に幌別・登別・登別の
三村をあわせて、戸長役場を幌別
村においたのです。
その後、明治十五年ころから、
徳島・香川・兵庫の各県から集団

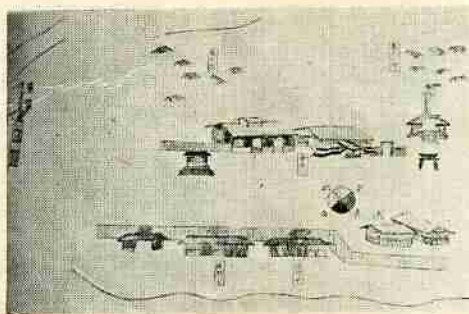
移民を迎え、くわえて明治三十九
年に幌別鉱山 加業がありました。

また、いっぽう明治六年、札幌
本道の開通、明治二十五年鉄道の
開通によって交通が便利になり、
村民生活のいたるところに、影響
があらわれました。そこで最も影
響のあつたのは登別温泉の発展と
いえるでしょう。それは行楽や湯
治客がたくさんくるようになり、
たちまち八軒の温泉宿がでまし
た。それにともない、みやげ屋、
食料品雑貨商魚屋が軒をならべ、
温泉街が形成されたのです。

しかし、村民の生活は楽ではな
かつたようです。農業と漁業が大
半を占め、とくに農業は自分のと
ころで食べるだけしか収穫がなく
水産物を村外に売つてはいたもの
の、米・みそ・しょう油などは村
外からの購入のほうが多いことか
ら、当時の生活が苦しかったこ
とがうかがえるでしょう。

ここで、明治末の子どもの遊び
についてふれてみましょう。
「なわとび」「輪ころがし」「か
つくい」「陣とり」「おにごっこ」
「コマまわし」「まりつき」「野
球」などを楽しんでいました。
とくに野球は、いまの子どもに
も人気がありますが、すでに明治
の終りころから盛んでした。この
ころは野球といわず、ベースボー
ルと呼んでいました。この野球を
村内にもちこんだのは日野 昇で
かれが室蘭に通学時代におぼえ、

片倉家支配地受け取り
当時の幌別



普及させたということですが。当時
小学校の三・四年生(このころは
小学校四年まで)が中心になって
遊び、球投げすら知らない子ども
たちの心をとらえたものです。

もっともグロップというものは
ありませんから、もつぱら素手で
やり、ボールは「ぜんまい」のワ
タを糸でグルグルまいたものを使
つたということ、いま思うとウ
ソのようなベースボールでした。
さて、明治末になると八一七世
帯、人口四、六五七人となり、明治
初めの二七世帯からみると大きな
増加がみられました。これにとも
ない農林水産業に、くわえて商工
鉱業も発達し、生産はだんだんと
伸び、開拓の基礎が堅実に築かれ
大正へと引継がれたのです。

幌別村の誕生

四つの市街地ができてあがる

資本主義の発達

明治時代は片倉主従による開拓が一応の成果をおさめ、それを中心として発展してきた幌別郡も、資本主義という新しい要素が加わることになったのです。

そこで、このころの日本の情勢についてふれてみましょう。

日本の産業は、日清・日露の二つの戦争で大きく発展しました。なかでも日露戦争後の機械をもちいる大工業の発展はいちじるしいものがありました。このことからも人の手による工業から、機械による工業へと発展し、蒸気力はしだいに電気動力へと移り、そのなかで製鉄、車輛、機械製作などと重工業の発達がありました。このように資本主義の発達は、とくに工業の成長がもつとも多く影響を与えたと言つてよいでしょう。

このような工業にくらべ、農業の発達は伸び悩み、農村人口が都市に流出しはじめ農業以外の労働者が急が増えはじめたのです。しかし、化学肥料が工業化されたことによつて農産物の収穫は、少しずつではあります、上昇してきました。

そこで、産業の発展によつて、

国内での商品販路を広げることほもちろん、海外に市場を広げなければなりません。それが、イギリスとドイツの対立をきっかけに、第一次世界大戦がはじまると、国内では工業生産に拍車がか

けられ製品を海外へ広く輸出しました。しかし、そのような戦争景気も長くはつづかず、大正六年の凶作、翌年からのシベリヤ出兵のための軍事備蓄、そして第一次世界大戦の終了にともなう輸出減少とかさなる要因によつて、国内を不況におとし、うなぎのほりに米の価額があがり、大衆の生活は苦しく、ついに米騒動さえもおこるようになったのです。

さて、目まぐるしく変わる社会のなかで、幌別郡も資本主義発展の影響を身近に感じ、村民の生活も深くそれに結びついていったのです。

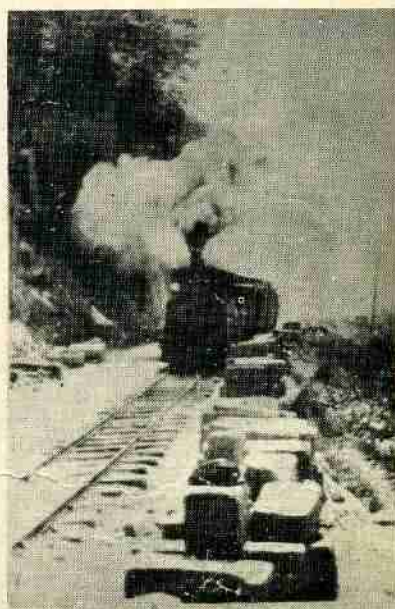
とくに幌別鉱山の開発によつて村の財政に与える影響は大きいものがありました。また幌別鉱山は大正五年から数年間にわたり、硫黄日本一の名声を得たのです。事業当初は一八一〇が入り始めて始め

られたものが、大正八年、事業の拡大とともに増加し、四五二戸を数え、従業員も四七六名に達しました。しかし、その後、事業不振などから大正九年を頂点として、しだいに下降線をたどるようになったのです。

また、このころ大湯沼周辺の硫黄採掘、登別に製鉄所、石材の産出などがありました。とくに石材は登別村字石山ではじめられたのですが、札幌軟石などともに広く建築材料に使われ、胆振石山の名は全道に知られたものです。

このように鉱工業のいちじるしい進展はこの時期の特色ですが、となりの室蘭にも日本製鋼所と輪西製鉄所の大工場が建設され、今日ある登別市の性格を考えるうえで製鉄、製鋼業の開始は大きな意義を持つていたといえるでしょう。

反面、大正の初期ころの幌別はまだ漁村の色彩がつよかつたのですが、その後沿岸漁業の不振で水産業はその王座を他産業にゆずるような状態になってしまいました。また農業は畑作中心であり、耕地面積も平均一・四ヘクタールにすぎず、いろいろな立地条件から米作への転換もむずかしく、馬や木材は別として伸びやんだといえるでしょう。しかし、戦後の不況をよく乗りこえて伸び続けたものに観光事業があります。来泉客を運ぶために大正四年、馬鉄を走らせ、同七年軽便鉄道に切り替え、



大正7年ころの改良軽便鉄道
(紅葉谷附近)

同十四年には電車にと目まぐるしく変り、そのなかで、客足はだんだんと伸び年間十三万人を越す宿泊客を迎えたということですが、

ところで大正年間の人口の伸びをみてみましょう。この時代は、世情の不安定なときにもかかわらず人口は伸びました。大正末期までの間に二、〇〇〇人増え、五〇割の伸び率を示しています。これを一年当りで見ると約一五〇人ずつの増加になります。当時としては他の町村にくらべ相当の増加を示したといつてよいでしょう。

このなかで、大正九年に第一回の国勢調査がおこなわれ、世帯数一、四四七、人口七、〇〇〇人でこれは全道民の約〇・三割にあつたということですが、

このように世帯数の増加、産業の発展にともなつて流通が増し、幌別・登別温泉・鷺別・登別は市街地を形成し、よつたようになってきました。市街地が形成されてくると

防火施設の必要性が叫ばれ、同年各地区にちらばつていた私設消防組を統合して、幌別村消防組が設立されました。

また村勢の発展から、同八年四月、二級町村制が施行され幌別郡一円を幌別村と改め、翌五月初めの村議の選挙がおこなわれ十二名の議員が選ばれました。この当時の有権者には制限があつて三二名に過ぎませんでした。しかし投票率九六割と自治への関心の強さを示しました。

このとき、明治二年幌別郡と定められてから、開基五〇周年にあたり半世紀にわたる村民の苦心がみゆり、ここに自治体の基礎が確立されたことは、なによりの喜びでした。

このように幌別村は一応、自治を得て出発したものの、昭和へ入り初期の不安定な世情のなかで、たくさんの方々の難問と試練が村民の前

昭和に入って

生活都市を目指し前進

苦難の道をのりこえる

日本の経済は、第一次世界大戦が終り、大正の末を頂点として、昭和二年の金融恐慌、打続く農作物の凶作などと不景気は慢性化し社会の不安はつるのりいっぽうでした。さらに満州事変、日華事変と続くなかで国民精神総動員という事態を迎え政治、経済、思想、文化などのあらゆる分野に戦時体制がしかれ、国家の全組織を戦争に集中していったのです。そして昭和十六年の太平洋戦争をきっかけに、第二次世界大戦へとますます戦域を広げていったのですが、ついに昭和二十年の敗戦をよぎなくされたのでした。

豊かなまちをつくりましよう (登別市民憲章)

そのようななかで幌別町も戦争体制の道からはずれる(は)許されず、慢性化した経済不況のなかで、なんとか新しい村の活路を見いだそうと苦勞しました。しかし昭和六年からの凶作が続き、また人口も横ばい状態を続けるなかで産業は進まず村勢の停滞したときでした。

それが、昭和十二年ころから、農・漁業は近年にない順調な天候に恵まれ良好な収穫をあげるようになり、とくに農業は打ち続いた凶作からようやく開放され、農民はもとより、村民のひとりひとりが前途に明るい希望をいだいたのです。そして同十四年、驚別に炬材工場社宅一〇五戸、同十八年、来馬に富士製鉄社宅一、四〇〇戸が建設され、これによって人口は一挙に一七、〇〇〇人と飛躍的な増加を示しました。

このように軍需産業の影響で、その後の幌別村は気運上昇の一途をたどるようになったのです。さて、昭和二十年の敗戦を迎え一番の問題は食糧でした。ただでさえ不足がちな食糧は、非情なまでの凶作によってさらに追い打ちをかけられ、混乱と虚脱のなかで人々は生きるために食糧を求め歩きました。

けれども、平和で文化的なまちづくりの決意の前に、意外といえるほど早く復興がおとすれました。昭和二十四年ころから、粗悪な

から衣料品が少しずつ出回るようになり、さらに人口が二万の大病を突破したことは村民を勇気づけることになりました。

また、この年北海道ソーダ工場の進出が決定し、これがきっかけとなって、その後いろいろな工場がぞくぞくと進出するようになりここに確固たる工業開発の基盤がすえられたのです。

そして昭和二十五年、朝鮮動乱をきっかけに、打ちのめされた日本の経済界にとつて、絶好のカンフル注射となり景気の回復はさらに早まりました。

翌二十六年には待望の町制が施行されたことよつて幌別町となり、このときの人口は二一、〇〇〇人でした。これは開基八十三年で人口は実に、一五六倍に伸びたことになりました。

またこのころから、金融機関が進出しはじめ、翌二十七年には自衛隊の誘致にふみきました。これらはともに幌別町に与えた影響が大きく、とくに自衛隊は商店街に与えた影響が強く、なかでも飲食店の急激な伸びがありました。

そして昭和三十六年、町名を登別町と改称し、これを町勢躍進の転機に、あらたなる決意と構想のもとに再発足したのです。これは登別温泉の名で世界に広く知られた湯のまちにふさわしい改称でした。この改称によつて「字本町」を「字幌別町」とし、本町にあつた

庁舎をいまの米馬町に移転新築したのです。

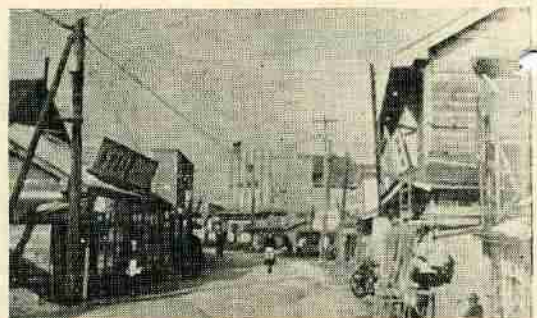
しかし、この年の十月、三日三晩降りつづいた集中豪雨によつて十一人もの犠牲者がでて、浸水家屋千戸以上という多くの損害を受けたことは、まだ記憶に新しいできごとです。

そして昭和三十八年、登別高校の建設、同じくして室蘭第二大谷高校を誘致しました。なかで町立登別高校は四〇年に道立高校として移管されています。

昭和四十二年、まる六年の歳月と巨額の工費をかけた工業用水ダムが完成し、登別町はもとより隣接する室蘭工業地帯へ送水開始したのです。

さて、その後産業・観光の開発をはじめ、都市計画が着々と進められるなかで、昭和四十五年八月待望の市制施行が実現し、道内三十番目の市としてスタートしました。このときの人口は四六、一八六人をこえ、開基一〇二年にして先大の苦勞がみのつたといえるでしょう。

いまや、かく限りなく躍進を続ける登別市も、美しい自然と平和な営みが調和する市建設に向かつて、先人の偉業を学び、たくましい開拓者精神をうけついで輝かしい未来を切りひらいていくことでしょう。これから、十年後、そして百年後にどんな未来が、つくられるでしょうか。



昭和二十九年ころの幌町商店街
現在の商店街



一般特別 予算追加 9千110万円

富浦の旧国道、市道に認定

第4回定例市議会は、12月13日から16日までの4日間にわたって開かれました。



一般会計は、老人医療費助成のために四百十五万四千円、児童手当を支給するため三百八十三万一千円、生活保護の扶助費として三千六百十五万五千円、ほつき稚貝移植事業の補助金として六十万円、登別温泉冬の観光まつり（湯まつり）への助成金として五十万円、冬の豪雪にたいして、その除雪費を九十万円など、七千四百七十七万一千円を追加しました。

これによって一般会計の歳入歳出予算総額二十億九百二十二万四千円となりました。

また特別会計の国民健康保険は療養給付費に九百二十六万二千円

初日の十三日は、ゴミ処理手数料の全面無料化、乳児保育所の設置に関する各委員会の報告六件とその他の報告三件、十四日は一般質問、十五日は四十五年度一般会計の決算の認定と老人医療費助成、その他一件、十六日は、四十五年度、一般・特別会計の補正予算とその他三件が審議されました。

一般会計
二十億九百万円に

その後、二回の委員会を開き、その慎重な審査結果報告が採択され、つぎのような意見をつけて市長に提出されました。

ゴミ手数料については、現在、一般世帯が無料、事業所などが有料ですが、これらの現行制度を再検討して改善の方向に進めるべきである。

なお、ゴミ処理場は近代的処理施設を早急に検討すべきである。乳児保育所の設置と幼児保育所の増設は、いまある幼児保育所がそのほとんどが定員を満し、全体的に不足していると考えますので調査のうえ増設願います。また乳児保育所については、これとあわせて早急に検討すべきである。

追加、観光事業は七十一万四千円を追加、学校給食事業は百一十七万七千円を追加、水道事業は三百三十六万五千円を追加し、一般・特別会計をあわせて、二十四億五千六百六十七万一千円となりました。

社会委員会の
審査結果報告を採択

九月の第三回定例市議会にだされていきましたゴミ手数料の全面無料の陳情書と乳児保育所の設置、幼児保育所の増設、それに関連して私設保育所をたいする助成などの請願は社会委員会に付託になっていました。

富浦町九番地から、登別町二七四番地までの旧国道三六号線（二七〇三三）を、蘭法華通りとして市道に認定しました。

これは国が四十四年から国道建設工事を進め、ことし全面開通になったため、国道が市へ移管されるものであります。

旧国道三六号線を
市道として認定

しかし私設保育所をたいする助成は、いま助成措置の制度や基準などがないので、これを設定のうえ検討すべきである。

老人医療費助成の
条例を可決

第三回の定例市議会で、ことしの一月から老人保健の向上と福祉を目的に、医療費を助成するという協議案が了承されました。

この市議会で、これをおこなうための細部のな条例と予算が提案されましたが、所得制限の徹底はできないか、「八十歳以上のおとしよりは、所得制限を取り除いてはどうか」などの意見がでました。しかし、これは将来だんだんと改善するということでも了承可決されました。

これによって、ことしの一月一日から、医療費の助成がスタートすることになりました。

市の人口

11月末現在

総人口	47,320	(214増)
男	23,760	(83増)
女	23,560	(131増)
世帯数	13,358	(69増)

()内は先月との増減

成人おめでとう



成人を機会に
国民年金に加入を
老後に備えよう

今月の納税

- ・市道民税（第4期）
- ・国民健康保険税（第4期）

1月31日までです。忘れずに納期内に納めましょう。

この定例市議会の十四日、市政について六名の議員から、一般質問が活発におこなわれしました。質疑応答のおもな内容はつぎのとおりです。

除雪対策について

問 市道延長にともない、現在一台保有している重機だけで、冬期豪雪時の除雪が万全であるのか。
答 冬期除雪の方針として、通学路、給食運搬路、牛乳集荷路幹線道路（札内地区）、一般市道、駐車場その他公共施設、主要な私道（準公道的なもの）となっている。

現在、保有している除雪重機（ブルドーザー、グレーダー各一台）は普通のととき一台で実施する。しかし豪雪、吹雪などを考え、カルルス、登別温泉、登別、札内、上鷺別地区には建設協業者の協力をえて、常に配置待機させ、降雪状況を見て電話連絡によって除雪開始できるような委託契約による実施をおこなっていききたい。

なお、すこしでも早く除雪をするため土木現業所とも充分な打ち合せのうえ協力をえて実施していききたい。また、ことしは幌別自衛隊から協力するとの申しでもあり、関係機関との綿密な連携のもとに協力を願ひ実施していく方針である。

不況対策について

問 中小企業の危機は脱したと、ある新聞で報道していたが、新日鉄、日鋼の減産などで労働者の賃金も減っており、これによって春頃から影響がでてくるものと思う。また金融機関の融資も大へんきついが、その方法や対策はあるのか。

答 ドルショックや鉄鋼大手メーカーの減産とあわせ、冷害という不況への追い打ちによって、当市の中小企業者や商店街に相当の影響があるものとみて、早くから市と商工会ともども業者などへの経営の指導をおこなってきた。また融資のあっせんについては、中小企業者の当面の資金繰り難を緩和するため、制度上の融資を満度に利用させるよう、各金融機関に指示協力を要請してきたので、いまの段階では、当市においてさほど

冬期間の除雪は万全か 敬老年金の増額を望む

一般質問

心配した景気の乱れは現われていない。

教育問題について

問 幌別東小学校のグラウンド整備は非常におくれているように思うが、これの整備はできないのか。

答 幌別東小、若草小と二年続いで新設校をつくり、その他教育施設の全般的な整備などのため財政的にも容易でない実情である。しかし新設校ということから全体的な計画のなかで、プー

はおりますが、範囲やその他のいろいろと種々な問題などもありいまのところ条例制定による禁止は考えていない。しかし当然公費で負担すべきもので、父兄負担となっているようなものについては、その範囲、内容に見解のことなるところや財政的な面もありますが、前進的にこれを解決、努力していききたい。

老人問題について

問 身寄りのない老人への巡回指導をもっと積極的にこなって

かどうか。

答 市内に居住している要保護老人世帯のうち、老衰、疾病その他の理由などで、生活を営むことが困難な世帯にたいし、五名の老人家庭奉仕員によって、家事および、介護相談などの業務をおこなっている。このようなことで、市内三六戸の対象世帯を週二・三回以上訪問している。また、これらの状況によっては、そのつど回数をふやし、訪問している。

問 現在、市で年一回敬老年金を

支給しているが、これを三月、九月の年二回に支給できないか。また、これとあわせて年金額の引き上げはできないか。

答 敬老年金は、毎年九月十五日敬老の日に支給しているが、この日が最も意義があると思うので現行どおり年一回支給したい。しかし、いまの年金額二千円を引き上げるとは、財源のゆるす範囲内において早急に増額していききたい。

市道舗装問題について

問 矢対話所前からゾーダ工場間の路線用地問題と舗装時期はいつになるのか。

答 この間は路盤改良区間として四十六年度、七六〇万を改良している。残った分は舗装の全体計画のなかで検討中である。また、用地は取得する方針で関係機関と協議中である。

問 刈田神社から幌中までの通学道路舗装と、西小学校通学路の幅員拡張と舗装はできないか。

答 幌別中学校通り路線の舗装は都市計画事業として、補助を要望しているところであり、四十七年度に実施可能である。

また、米馬西一号线（西通り）の改良舗装は、都市計画街路事業として幅員十六メートルで実施するよう計画であり、市全体の街路計画のなかで早期実現するよう検討中である。

おしらせ



路上駐車は

除雪のさまたげになる
市では、冬の豪雪時にそなえ、万全な除雪体制をとるようにしております。

しかし、実際に除雪作業をおこなうと車の路上駐車が多いため、思うようにはかどらず、他の地区の除雪がおくれるばかりか、その地区さえも除雪できなくなる場合もあります。そこでつぎのような路上にはできるだけ駐車はさけるようにご協力ください。

市内保育所の

児童を募集します

ことしの市内保育所の入所児童をつぎのとおり募集します。

▽受け付け期間 二月十日(木) から二月十九日(土)まで。

▽入所資格 満三才以上で、つぎのような児童です。

- ・母親がいない家庭。
- ・母親が出産の前夜、または心身

に障害があつて保育できない家庭。

・母親が昼間、家庭外で仕事をしたり、家庭内でこともと離れて仕事(家事以外)をするため保育できない家庭。

・長期にわたる病人などがいて、その看護のため保育できない家庭。

なお受け付けは市福祉事務所各支所でおこないます。

水道の

凍結を防ごう

一月・二月は最も寒さがきびしくなります。就寝前または、留守をするときは、水道をおとし凍結を防ぐようにしましょう。

不凍給水栓の場合(おもに来馬町)

新日鉄社宅

ハンドルを止まるまで回し、充分開くと三・四秒で水が白くあ

立ち、勢よく出てきます。これをよく確めてから、ハンドルをし

っかりとどしてください。

防寒止水栓(活弁ともいう)

または水抜栓の場合

じゃ口を開いたあと、ハンドルを止まるまで回し、簡単に水

がおちます。しかし、このハンドルを不完全な状態にしておきますと凍結や漏水、その他故障の原因になりますから注意してください。なお、屋外にある止水栓や量水器は紙かビニールなどを利用して雪や汚水が浸入しないようフタをするようにしましょう。また、春先になりまししたらお手数でも取除くようにしてください。

源泉所得税の

還付手続きを早めに

例年、サラリーマンなどの給与所得者で、前年中に災害にあつたり、医療費を多く支出した人は、確定申告によって納め過ぎとなつた源泉所得税が還付されます。

確定申告は、二月十六日から、三月十五日までとなっていますが

この期間は事業者の確定申告時期で税務署が、相当混みあいますので還付申告の受け付けは、今月から始めています。

とくに所得税の減税を実施したため年末調整による還付も、例年になく多くなるものと思ひますので手続きは早めにするようにしてください。

事業経営者へ

納税証明願ひは

なるべく今月中に

土建業者などの登録更新や、入札などに納税証明書が必要なシズンを迎えて、室蘭税務署では、この証明書の請求を早めにおこな

うよう関係者の協力を呼びかけています。毎年、税務署では四千通の納税証明書を交付していますが例年、一月から三月までに集中しこれは年度切り替え前だけに、土建業者などの登録更新や入札、さらに金融機関からの借入れのために殺到しているからです。

しかし、二月・三月は所得税確定申告書提出と、その納期でもあり、さらに年末調整などによる還付の時期でもあります。このよう

な忙しい時期に納税証明の請求をしても即日交付されない場合もありますので、なるべく今月中に請求するようにしてください。

法定 源泉徴収票などの

提出は今月中まで

給与の支払者は、毎年十二月に所得税源泉徴収事務の総決算として「年末調整」をおこなうことになつております。

年末調整がすんだのち、給与の支払者がおこなわなければならないおもなことは、徴収税額の納付と源泉徴収票(給与支払報告書)の作成、交付、提出などがあります。

なお、これらの提出期限は一月三十一日までとなつておりますのでお早めに市税務課まで提出するようにしてください。

事業専従者のある青色申告者も法定調書提出の義務がありますのでお忘れ、いようお願いします。

「寄付ありがとう」

「ございます」

(愛情銀行へ)

匿名 (幌別町)

西沢進之助(来馬町)

大坂則季(来馬町)

小田美代子(登別町)

山口キヨ(登別町)

佐藤仕出しセンター(来馬町)

有愛青年同志会登別支部

(物品寄贈)

坪内 清(来馬町) 衣類

小田美代子(登別町) 衣類

鈴木 正(登別町) 衣類

有坂了孝(登別町) 衣類

鷲小六年組(同スケート外)

今井みつ(来馬町) 衣類

小 森(来馬町) 衣類

高松機三郎(来馬町) 衣類外

(古切手寄贈)

若草小学校

東小学校六年二組

木村ノブ(幌別町)

持丸虎太郎(鷲別町)

畑野義雄(幌別町)

藤田茂夫(川上町)

第一生命登別支部(幌別町)

東条佐市(来馬町)

オロフレ荘

丸正ミート機

(老人クラブ富士の白雪会へ)

石垣和義(来馬町)

(市中央公民館へ)

登別ライオンズクラブ

舞台中華一式

一、〇〇〇円

五〇〇円

五、〇〇〇円

一、〇〇〇円

七、〇〇〇円

二、〇〇〇円

八 点

二 点

五 点

一 点

五 点

一 点

二 点

三〇〇枚

四七枚

六〇枚

三枚枚

二枚枚

五〇枚

五〇枚

九〇枚

五、〇〇〇枚

三、九四枚

一、七五円

二、七五円

二、七五円

二、七五円

二、七五円

二、七五円

二、七五円

二、七五円

二、七五円